

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成25年度研究開発実施報告書

「科学技術イノベーション政策のための科学  
研究開発プログラム」

研究開発プロジェクト  
「STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム  
設計 (PESTI=ペスティ)」

研究代表者 加納 圭  
(滋賀大学教育学部／京都大学物質－細胞統合  
システム拠点 (iCeMS)、准教授／特任講師)

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の要約 .....	2
2 - 1. 研究開発目標 .....	2
2 - 2. 実施項目・内容 .....	2
2 - 3. 主な結果 .....	2
3. 研究開発実施の具体的内容 .....	3
3 - 1. 研究開発目標 .....	3
3 - 2. 実施方法・実施内容 .....	3
3 - 3. 研究開発結果・成果 .....	4
3 - 4. 会議等の活動 .....	8
4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	20
5. 研究開発実施体制 .....	20
6. 研究開発実施者 .....	21
7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	24
7 - 1. ワークショップ等 .....	24
7 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	28
7 - 3. 論文発表 .....	29
7 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	30
7 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等 .....	30
7 - 6. 特許出願（国内出願件数のみ公開） .....	31

## 1. 研究開発プロジェクト名

STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計（PESTI=ペスティ）

## 2. 研究開発実施の要約

### 2 - 1. 研究開発目標

- 1) 「科学への関心」や「政策への関与」等の観点からセグメンテーションやプロファイリングを行い、これまで漠然と「国民」とされていた国民像をいくつかの鮮明なセグメントで捉え直す。その上で、STIに向けた「セグメント固有のニーズ」を発掘していくこと。
- 2) セグメント固有のニーズを発掘する際には、「STI政策メニューの提示に資する」ことを最重視する。そのため、現実の政策形成につなげるための視点や工夫を加えること。
- 3) 成果を「実務家が利用できる」ようにすることを重視する。そのため、実務家との連携・協働を基本的な軸とすること。

### 2 - 2. 実施項目・内容

本年度の前半（2013年4月1日～2013年9月30日）に関しては、3年が予定されている研究期間の最初の1年目に計画していた内容を、H24年度に構築した土台を基盤としながら進めた。また、本年度の後半（2013年10月1日～2014年3月31日）に関しては、研究期間2年目の前半に予定していた内容を進めるための基盤を構築した。

### 2 - 3. 主な結果

以下の9項目について成果を得た。

- 1) 「再生医療」をテーマとした、「関心層」固有のニーズ発掘
- 2) 実務家と「ともに」政策メニュー作成
- 3) 関心層別の参加を促す場づくり
- 4) 関心層別の特徴を、特に政策関与行動を中心に分析
- 5) セグメンテーション・プロファイル改良のための調査設計
- 6) 実務家と「ともに」行う、テーマ設定のトライアル
- 7) セグメント別に「政策メニュー提示に資するニーズ」を発掘する「方法論」構築のための戦略立案
- 8) 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）を通して国民のニーズを把握することへの実務家ニーズ調査の枠組づくり
- 9) 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）へのエビデンス実装の枠組づくり

### 3. 研究開発実施の具体的内容

#### 3 - 1. 研究開発目標

本プロジェクトでは、以下の3点を目標とする。

- 1) 「科学への関心」や「政策への関与」等の観点からセグメンテーションやプロファイリングを行い、これまで漠然と「国民」とされていた国民像をいくつかの鮮明なセグメントで捉え直す。その上で、STIに向けた「セグメント固有のニーズ」を発掘していくことを目標の1つとする。
- 2) セグメント固有のニーズを発掘する際には、「STI政策メニューの提示に資する」ことを最重視する。そのため、現実の政策形成につなげるための視点や工夫を加えることを目標の1つとする。
- 3) 成果を「実務家が利用できる」ようにすることを重視する。そのため、実務家との連携・協働を基本的な軸とすることを目標の1つとする。

#### 3 - 2. 実施方法・実施内容

本年度の前半（2013年4月1日～2013年9月30日）に関しては、3年が予定されている研究期間の最初の1年目に計画していた内容（図1）をH24年度に構築した土台を基盤としながら進めた。具体的には、以下の4項目である。

- 1) 「再生医療」をテーマとした、「関心層」固有のニーズ発掘
- 2) 実務家と「ともに」政策メニュー作成
- 3) 関心層別の参加を促す場づくり
- 4) 関心層別の特徴を、特に政策関与行動を中心に分析

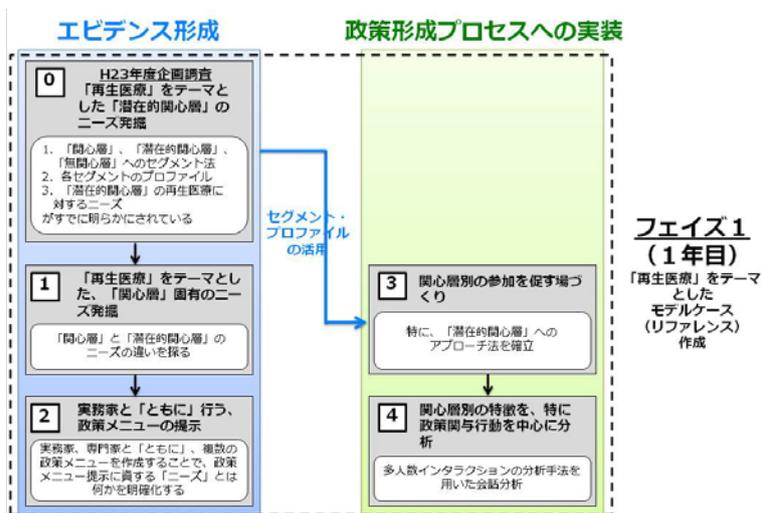


図1：1年目の研究計画

また、本年度の後半（2013年10月1日～2014年3月31日）に関しては、研究期間2年目の前半に予定している内容（図2）を進めるための基盤を構築した。具体的には以下の5項目である。

- 5) セグメンテーション・プロファイル改良のための調査設計
- 6) 実務家と「ともに」行う、テーマ設定のトライアル

- 7) セグメント別に「政策メニュー提示に資するニーズ」を発掘する「方法論」構築のための戦略立案
- 8) 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）を通して国民のニーズを把握することへの実務家ニーズ調査の枠組づくり
- 9) 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）へのエビデンス実装の枠組づくり
- 加えて、プロジェクトマネジメントの一環として、加納PJの社会への実装を達成する上で必要となる知見を収集することを目的とし、英国への訪問調査を行った。

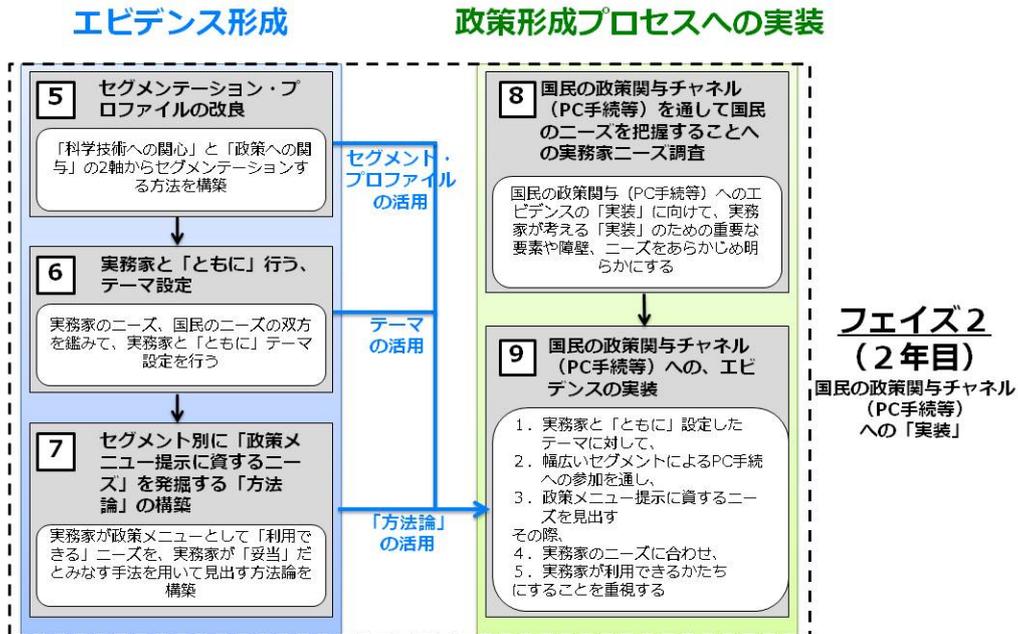


図2：2年目の研究計画

### 3 - 3. 研究開発結果・成果

実施した9つの項目ごとの研究開発結果・成果は以下の通りである。

#### 1) 「再生医療」をテーマとした、「関心層」固有のニーズ発掘

1年度目を実施したグループインタビューの結果を分析し、「関心層」固有のニーズ発掘を行うとともに、「潜在的関心層の顕在ニーズ」が「関心層の潜在ニーズ」である可能性を検証することを目指した。その結果、「関心層」は「潜在的関心層」と比べて、科学技術に対する理解をベースに、長期的に公共性・実現可能性を視野にいれたニーズをもつことが明らかになった。つまり、「潜在的関心層」の顕在ニーズは、概ね身近で自己に関係しているが、「関心層」は全体を俯瞰するため、身近で自己に関係したニーズは、比較すると表現されにくい傾向があることが分かった。しかしながら、当然「関心層」も身近なニーズも保有するはずであり、それを関心層の潜在ニーズととらえることも可能だと思われる。

#### 2) 実務家と「ともに」政策メニュー作成

1年度目から実施を開始した政策デザインワークショップシリーズにおける知見も交え、企画調査における成果として得られた「再生医療に対するニーズ」に基づく政策メニュー

作成を試行した。具体的には、閣議決定であり科学技術イノベーション政策の根幹となる「科学技術イノベーション総合戦略」（平成25年6月7日閣議決定）、それ以前に医療分野の科学技術イノベーション政策において重要な位置づけを果たしたとみられる「医療イノベーション5か年戦略」（医療イノベーション会議、平成24年6月6日）、短期的事業・成果目標が具体的に記されている「平成25年度科学技術重要施策アクションプランの対象施策について」（科学技術政策担当大臣・総合科学技術会議有識者議員、平成24年9月13日）、そして現状認識を分析した「再生医療の実用化・産業化に関する報告書—最終取りまとめ」（再生医療の実用化・産業課に関する研究会、平成25年2月）を縦覧し、再生医療政策にかかるロジックモデルを作成した。

さらに、STI政策全般について実務家の幅広く多様な関心を探ることで、再生医療をモデルに見出した「政策メニュー提示に資するニーズ」のうち、どの点が再生医療政策以外のSTI政策でも共通して見出されそうかについても検討を行い、STI政策テーマ設定および政策メニュー作成の方針や方策を立案することを目指した。ロジックモデルを通じた考察と実務家の多様な関心の検討の結果、政策立案プロセスのより上流である「ビジョン」に関するニーズが再生医療政策以外のSTI政策でも共通して見いだされるのではないかという方針を立案した。

また、専門家を対象としたヒアリング調査を行い、本プロジェクトが現時点で描くスキームへの専門家側の感触を調査すると共に、スキーム中における専門家の位置付けの明確化に向けた検討を行った。その結果、専門家インタビュー調査において、再生医療の政策ロジックモデルと国民ニーズ・意見を、本プロジェクトが当初計画していたような形で紐付けることは困難であることが明らかとなった。各分野の専門家は多かれ少なかれ当該分野のステークホルダーであるため、国民ニーズを踏まえて科学技術分野全体を俯瞰することが容易ではないこと、また再生医療に関して収集した国民ニーズが専門家によるコメントを想定しておらず、手法としての整合性を欠いたことなどが原因として推測された。

### 3) 関心層別の参加を促す場づくり

1年度目に戦略立案した「潜在的関心層」へのアプローチのための集めるアプローチと出向くアプローチに基づき、特に「潜在的関心層」の参加を促す場づくり手法を構築した。具体的には、新規の政策関与ツールとして「対話型パブリックコメント」（以下、対話型パブコメ）を開発した。京都市基本計画の策定時に組織された「未来の担い手・若者会議U35」における「パブコメ部隊」が行っていた攻めのパブコメを参照し、開発した。また、パブコメ部隊所属者を中心に任意団体「パブコメ普及協会」が結成され、本プロジェクトとパブコメ普及協会とが協働して対話型パブコメを実施・普及展開を行っている。対話型パブコメの特徴のひとつとして、様々な場に赴いて、多様な市民の意見を「取りに行く」（通常意見を出さない人もターゲットにした“攻めのパブコメ”）ことがあげられる。

また、本プロジェクトを通じて開発を進める、関心層別の参加を促す場づくりを社会実装することを視野におき、国内の既存の科学コミュニケーション活動実施者をゆるやかにつなぐネットワーク構築を目指した。具体的には、JST「地域ネットワーク支援」で形成された拠点などを活用したネットワーク形成を試み、政策プロセスへの対応のあり方を検討するとともに、福島大学、鹿児島大学、北海道大学の関係者と第一段階の協議を行った。

#### 4) 関心層別の特徴を、特に政策関与行動を中心に分析

1年度目を実施したパブコメワークショップや「関心層」へのグループインタビューの結果から、場づくり過程における参加者がどのような政策関与行動を取った／取ろうとしたかをエスノメソロジー・会話分析の手法を用いて定性的に分析した。

その結果、現実の対面での対話の場において「科学技術政策に関して意見を述べる」という政策関与行動を取る際、各参加者はそこでの意見を有意味なものとして成立させるためにさまざまなより微細なアイデンティティを自ら使い分けているが、これらは必ずしも「科学技術政策への関心」と直接紐付いたものではなく、科学技術のトピックや、やり取りの場に共在する他者の参加との関係性などに応じて可変的であるという新たな視点が得られた。「科学技術政策への関心」と「政策関与行動」を結びつけるこの知見は、多様なアクターの参加を促す場づくりという目標に資するものである。

また、これと並行して、心理学的手法を用いた定量調査を実施し、セグメント別の政策関与行動の特徴、および科学技術への関心と政策への関与との関係性を検討した。

893名を対象に、科学技術政策と公共事業政策それぞれについて持つ印象や、それぞれの政策へ意見を述べようとする意向についてインターネット調査を行った。詳細は分析中であるが、科学技術政策についての印象の形成には、科学・技術への関与と政策への関与の「有効性認識」の両者が関わっていると考えられた。

#### 5) セグメンテーション・プロファイル改良のための調査設計と実施

1) の定性調査より得られた項目を小規模で定量的に検証するため、15問の質問紙調査を人口動態に対応して割り付けた893人に行った。当初から設定している「科学技術への関心軸」に加え、「政策への関与軸」という新たな軸を想定した。1) で述べたように、潜在的関心層は科学技術政策を自身に関係しない領域と捉えており、関心層は自身に関係する領域と捉えているという、仮説の検証が目的の1つである。具体的には、政策への自己の影響力の主観的評価、仮想政策担当者として回答する設問と当事者となった感想などの項目を調査に加えて、層別の比較を試みた。また、科学技術の産業化に大きな影響を与える、国民の科学技術に関連する消費行動についてRogersのイノベーション普及理論を参照し、関連性を調べた。これらの結果を含めたプロジェクト企画調査からの調査分析の積み重ねを踏まえ、全国民から無作為に抽出した2000サンプルを対象に、訪問面接聴取法を用いた調査を行い、887の回答者を得た。尚、本年度は調査の設計と実施及び単純集計を行い、次年度に詳細な分析を行う予定である。質問項目は次の6つである。

- (1) 科学技術への関心、理解度、情報収集などについて
- (2) 科学技術イノベーション政策形成に対する自己の影響力の主観的評価について
- (3) 日本国内の各種政策と科学技術イノベーション政策への関心、評価などについて
- (4) 科学技術の進歩に寄与する組織・人・共同関係について
- (5) 新技術・新製品に対する態度について
- (6) ライフスタイルについて

詳細な結果の分析は、次年度の課題としたい。

## 6) 実務家と「ともに」行う、テーマ設定のトライアル

本プロジェクト実施者らが主導してテーマを設定するのではなく、国民のニーズも鑑みながら実務家との連携・協働で設定することを目指した。今年度はSciREX政策形成実践プログラム（仮称）との連携を模索し、仮想のテーマも視野に入れて1つの具体的なテーマ設定を実務家とともにやった。その結果、まず、SciREX政策形成実践プログラムにおけるプロトタイプのイメージの1つ「政策課題「予知予防を重視した健康長寿社会の実現」に対して、目指すべき2030年の社会像（目標、指標）を設定すること」へ貢献することを目指し、「目指すべき2030年の社会像」をテーマとした。

その後、2013年9月8日（日本時間）に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定したことに伴い、「夢ビジョン」が「2020年を単に五輪開催の年とするのではなく、新たな成長に向かうターゲットイヤーとして位置づけ、東京だけでなく日本社会を元気にするための取組」として文部科学省の主要な政策課題に設定された。そこで、当初設定していたテーマ「目指すべき2030年の社会像」を微修正し、「2020年の東京オリンピック・パラリンピックを通過点とした目指すべき2030年の社会像」とし、SciREX政策形成実践プログラムだけでなく「夢ビジョン」への貢献も目指すこととした。

また、そのテーマにおける専門的中心課題を見出すための専門家対象アンケート調査の設計を行った。

## 7) セグメント別に「政策メニュー提示に資するニーズ」を発掘する「方法論」構築のための戦略立案

実務家と協働しつつ、どのような手法で、どのようなニーズを発掘することが「政策メニュー提示に資する」という観点からみて妥当なのかを検証した。ニーズ発掘時に、現実の政策形成につなげるための視点・工夫を入れることで、「実務家が利用できる」ことを重視した。具体的には、「知ろう」、「語ろう」、「届けよう」という3回シリーズで構成される対話型パブリックコメントを実施した。テーマは先述の通り「2020年の東京オリンピック・パラリンピックを通過点とした目指すべき2030年の社会像」とし、問いかけ方などに工夫を凝らすことで2030年の夢ビジョンを多数（74件）得た。

## 8) 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）を通して国民のニーズを把握することへの実務家ニーズ調査の枠組づくり

すでに制度化されているPC手続をエビデンスとして政策形成プロセスへの反映に活用するため、実務家はどのような要素を重要視しているのか、どのような障壁やニーズを持っているのかをインタビュー調査や政策デザインワークショップ等を通して明らかにした。その結果、既存のPC手続きをどのように改良したりしても、実務家からは政策形成に対する実質性の乏しい形式的な取組とみなされる可能性が高いことが示唆された。

したがって今年度は、次年度に実施予定のPC手続にこだわらない国民の政策関与チャンネルのあり方について、実務家と「ともに」見出していく取組の試行および計画立案を行った。具体的には、先述の「対話型パブコメ」を試行し、これが政策関与チャンネルとして機能し得ることが分かった。

## 9) 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）へのエビデンス実装の枠組づくり

国民の政策関与チャンネルへのエビデンス実装のための枠組づくりを行った。具体的には、市民参画型の科学技術に関する政策形成過程の研究・開発プログラムの一環として行われる対話型のパブリックコメント収集活動を、主にデータの収集・集計・管理の点で支援する実験用ソフトウェア群（以降、パブリックコメントシステムと呼ぶ）である「パブリックコメント収集システム」を開発した。

### 英国への訪問調査

上述の1)～9)に加え、プロジェクトマネジメントの一環として、本研究プロジェクトの社会実装を達成する上で必要となる知見を収集することを目的とし、2014年1月19日から2014年2月19日まで、英国へ4週間の訪問調査を行った。国民の政策関与について研究・実践で活発に活動を行っている12の機関を対象とし、14件のインタビューを行った。

インタビューからは、政策形成過程への国民の政策関与の定着を目指す上では、政策実務において重要な役割を担っている人物からの強い擁護が欠かせないということが示唆された。また、本プロジェクトが既に取り組んでいる参加から政策形成までのトレーサビリティの可視化と、参加者へのフィードバックの手法の開発に今後より注力していくことの必要性が重要な視点であることも示唆された。

また、英国では、科学技術社会論や科学コミュニケーションの研究が、科学技術への国民の政策関与を推進してきた事例を元に、様々な論点から批判的・反省的な議論を展開してきており、本プロジェクトの研究開発活動に資する重要な視点を得ることもできた。

## 3 - 4. 会議等の活動

・実施体制内での主なミーティング等の開催状況

年月日	名称	場所	概要
2013年 4月1日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (Victoriaモデル検証チーム)	京都大学	H24年度に実施した調査によって得られたデータの分析結果についての議論
2013年 4月3日	【グループ会議】 実践評価G	京都大学	実践評価GのH25年度の進め方について議論
2013年 4月8日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	H25年度に開発予定のシステムに関する議論
2013年 4月8日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学	専門家連携GのH25年度の進め方について議論
2013年	【グループ会議】	京都大学	実践評価GのH25年度の進め方について議論

4月11日	実践評価G		ついて議論
2013年 4月15日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (PESTIモデル構築チーム)	京都大学	セグメンテーション・ニーズ発掘GのH25年度の進め方について議論
2013年 4月17日	【グループ会議】 場づくりサブG	神戸大学	場づくりサブGのH25年度の進め方について議論
2013年 4月18日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (Victoriaモデル検証チーム)	京都大学	セグメンテーション・ニーズ発掘GのH25年度の進め方について議論
2013年 4月23日	【グループ会議】 場づくりサブG	大阪市淀川区	全国各地に存在する団体とどのように連携をすべきか議論
2013年 4月24日	【グループ会議】 実践評価G	京都大学	コミュニケーションの分析対象になり得る場についての議論
2013年 4月25日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	東京都港区	H25年度に開発予定のシステムに関する議論
2013年 4月26日	プログラムアドバイザー (木村忠正先生) との面会	東京大学	プロジェクトの方向性に関する議論
2013年 5月2日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (PESTIモデル構築チーム) & 実務家蓮家G	京都大学	セグメンテーションに関する実務家のニーズについて議論
2013年 5月6日	【グループ会議】 場づくりサブG & 実践評価G	ナレッジキャピタル (大阪市北区)	場づくり会場の候補地の視察と会話分析に関する情報共有

2013年 5月13日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	プロジェクト全体会議のアジェンダとプロジェクト内情報共有について議論
2013年 5月16日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	H25年度に開発予定のシステムに関する議論
2013年 5月16日	【全体会議】 全体運営会議	京都大学	プロジェクト内情報共有の仕組みづくりに関する議論
2013年 5月21日	【グループ会議】 実務家連携G	東京都千代田区	実務家連携GのH25年度の進め方について議論
2013年 5月22日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (Victoriaモデル検証チーム)	京都大学	H24年度に実施した調査によって得られたデータの分析結果についての議論
2013年 5月27日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (PESTIモデル構築チーム) & 実務家連家G	京都大学	セグメンテーションに関する実務家のニーズについて議論
2013年 5月13日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	プロジェクト、グループ内情報共有について議論
2013年 5月28日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	プロジェクト、グループ内情報共有について議論
2013年 6月3日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (Victoriaモデル検証チーム)	京都大学	H24年度に実施した調査によって得られたデータを利用した論文作成に関する議論

2013年 6月4日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	プロジェクト、グループ内情報共有について議論
2013年 6月7日	【グループ会議】 実務家連携G	神戸大学	実務家のニーズをどのように聞き出すかを議論
2013年 6月10日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (PESTIモデル構築チーム) &実務家連家G	京都大学	セグメンテーションに関する実務家のニーズについて議論
2013年 6月10日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	H25年度に開発予定のシステムに関する議論
2013年 6月20日	【グループ会議】 実務家連携G	京都大学	ナノ物質のリスク管理について市民から意見を収集するための議論
2013年 6月20日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	H25年度に開発予定のシステムに関する議論
2013年 6月24日	【グループ会議】 場づくりサブG	神戸大学	H25年6月の進捗共有と今後の進め方について議論
2013年 6月28日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (Victoriaモデル検証チーム)	京都大学	H25年6月の進捗共有と今後の進め方について議論
2013年 7月1日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (PESTIモデル構築チーム)	大阪市淀川区	H25年6月の進捗共有と今後の進め方について議論

2013年 7月1日	【グループ会議】 実務家連携G	東京都千代田 区	H25年6月の進捗共有と今後の進 め方について議論
2013年 7月2日	【グループ会議】 実務家連携G & 専門家連携G	京都大学（鳥 取大学）	再生医療に関する政策オプション 形成について議論
2013年 7月8日	【グループ会議】 セグメンテーシ ョン・ニーズ発掘 G（Victoriaモデ ル検証チーム）	京都大学	H24年度に実施した調査によって 得られたデータを利用した論文作 成に関する議論
2013年 7月8日	【グループ会議】 実践評価G	京都大学	H25年6月の進捗共有と今後の進 め方について議論
2013年 7月18日	【グループ会議】 仕組みづくりサ ブG	京都大学	H25年度に開発予定のシステムに 関する議論
2013年 7月18日	【グループ会議】 セグメンテーシ ョン・ニーズ発掘 G（Victoriaモデ ル検証チーム）	京都大学	Victoriaモデル検証のためのアン ケート調査項目に関する議論
2013年 7月24日	【グループ会議】 場づくりサブG	神戸大学	H25年7月の進捗共有と今後の進 め方について議論
2013年 7月26日	【グループ会議】 実務家連携G & 専門家連携G	京都大学 & 鳥 取大学（Skyp eにて）	再生医療に関する政策オプション 形成について議論
2013年 7月29日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学	H25年7月の進捗共有と今後の進 め方について議論
2013年 7月29日	【全体会議】 全体運営会議	京都大学	プロジェクト1年目終結に向けた 議論

2013年 7月30日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘 G (Victoriaモデル 検証チーム)	京都大学	H25年7月の進捗共有と今後の進 め方について議論
2013年 8月2日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘 G (Victoriaモデル 検証チーム)	京都大学	H24年度に実施した調査によって 得られたデータを利用した論文作 成に関する議論
2013年 8月2日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	全国各地に存在する団体との連携 やパブリックコメントを活用した 場づくりについて議論
2013年 8月5日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘 G (PESTIモデル 構築チーム) &実 務家蓮家G	京都大学	世論調査の設計について議論
2013年 8月12日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘 G (PESTIモデル 構築チーム) &実 務家蓮家G	京都大学	世論調査の設計について議論
2013年 8月26日	【全体会議】 全体運営会議	鳥取大学	世論調査の設計やプロジェクトの 方向性などについて議論
2013年 8月27日	【全体会議】 全体運営会議	ホテルモナー ク鳥取（鳥取 市）	社会実装のあり方やプロジェクト の方向性などについて議論

2013年 9月4日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	プロジェクトの概要図作成のための議論
2013年 9月10日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (PESTIモデル構築チーム) & 実務家蓮家G	京都大学	世論調査の設計について議論
2013年 9月11日	【グループ会議】 実務家連携G & 専門家連携G & 仕組みづくりサブG	京都大学	再生医療に関わる政策オプション作成に関する議論
2013年 9月15日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (Victoriaモデル検証チーム)	京都大学	Victoriaモデル検証のためのアンケート調査に関する議論
2013年 9月17日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘G (Victoriaモデル検証チーム)	京都大学	Victoriaモデル検証のためのアンケート調査に関する議論
2013年 9月17日	【全体会議】 全体運営会議	京都大学	研究プロジェクト1年目の総括と2年目の方向性や世論調査などについて議論
2013年 9月30日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャピタル（大阪市北区）	PESTIワークショップシリーズ実施後の反省会と次回のワークショップに向けての議論

2013年 10月7日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	次回のPESTIワークショップに向 けての議論
2013年 10月8日	【グループ会議】 セグメンテーシ ョン・ニーズ発掘 G（Victoriaモデ ル検証チーム）	京都大学	Victoriaモデル検証のためのアン ケート調査に関する議論
2013年 10月9日	【グループ会議】 セグメンテーシ ョン・ニーズ発掘 G（PESTIモデル 構築チーム）&実 務家蓮家G	京都大学	世論調査の設計について議論
2013年 10月15日	【グループ会議】 実務家連携G	京都大学	H25年9-10月の進捗共有と今後の 進め方について議論
2013年 10月16日	【グループ会議】 セグメンテーシ ョン・ニーズ発掘 G（Victoriaモデ ル検証チーム）	京都大学	H25年9-10月の進捗共有と今後の 進め方について議論
2013年 10月17日	【グループ会議】 場づくりサブG	神戸大学	H25年9-10月の進捗共有と今後の 進め方について議論
2013年 10月24日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学&鳥 取大学（Skyp eにて）	H25年9-10月の進捗共有と今後の 進め方について議論
2013年 10月24日	【グループ会議】 実践評価G	京都大学	H25年9-10月の進捗共有と今後の 進め方について議論
2013年 10月25日	【グループ会議】 仕組みづくりサ ブG	京都大学	H25年9-10月の進捗共有と今後の 進め方について議論

2013年 10月26日	【グループ会議】 セグメンテーション・ニーズ発掘 G (PESTIモデル 構築チーム) &実 務家蓮家G	京都大学	世論調査の設計について議論
2013年 10月28日	【グループ会議】 研究代表者から なるG	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	対話型パブリックコメントで活用 する資料作成に関する議論
2013年 10月28日	【全体会議】 全体運営会議	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	プロジェクト全体の進捗状況の共 有
2013年 10月31日	【グループ会議】 仕組みづくりサ ブG	京都大学	H25年度に開発予定のシステムに 関する議論
2013年 11月7日	【グループ会議】 研究代表者から なるG	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	プロジェクト、グループ内情報共 有について議論
2013年 11月7日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	次回のPESTIワークショップに向 けての議論
2013年 11月11日	【グループ会議】 セグメンテーシ ョン・ニーズ発掘 G (Victoriaモデ ル検証チーム)	京都大学	年度内のスケジュールについて議 論
2013年 11月13日	【グループ会議】 セグメンテーシ ョン・ニーズ発掘 G (PESTIモデル 構築チーム) &実 務家蓮家G	京都大学	世論調査の設計について議論

2013年 11月22日	【グループ会議】 実践評価G	京都大学	H25年11月までの進捗共有
2013年 11月25日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャピタル（大阪 市北区）	次回のPESTIワークショップに向 けての議論
2013年 11月29日	プロジェクトア ドバイザー（五十 嵐道子先生）、奥 和田フェローと の意見交換	京都大学	プロジェクトの進捗報告と今後の 方向性に関する議論
2013年 12月2日	【グループ会議】 場づくりサブG	神戸大学	ここまでの場づくりの総括
2013年 12月6日	【グループ会議】 研究代表者から なるG	京都大学	プロジェクト全体会議のアジェン ダについて議論
2013年 12月6日	【グループ会議】 セグメンテーシ ョン・ニーズ発掘 G（Victoriaモデ ル検証チーム）	京都大学	Victoriaモデル検証のためのアン ケート調査の分析や論文化につい て議論
2013年 12月6日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学&滋 賀大学（Skyp eにて）	今後の進め方について議論
2013年 12月9日	【グループ会議】 セグメンテーシ ョン・ニーズ発掘 G（Victoriaモデ ル検証チーム）	ナレッジキャピタル（大阪 市北区）	Victoriaモデル検証のためのアン ケート調査の分析や論文化につい て議論
2013年 12月9日	【全体会議】 全体運営会議	ナレッジキャピタル（大阪 市北区）	プロジェクト全体の進捗状況の共 有

2013年 12月12日	【グループ会議】 実務家連携G	京都大学	訪英調査と人材育成拠点における 授業内容について議論
2013年 12月19日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	H24年度に実施したワークショッ プのとりまとめについて議論
2013年 12月26日	【グループ会議】 実務家連携G	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	H25年12月までの進捗共有と今後 の進め方について議論
2013年 12月26日	【グループ会議】 専門家連携G	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	H25年12月までの進捗共有と今後 の進め方について議論
2014年 1月17日	【グループ会議】 仕組みづくりサ ブG	京都大学	H25年度に開発予定のシステムに 関する議論
2014年 1月20日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	対話型パブリックコメントに関す る情報共有
2014年 1月24日	【グループ会議】 仕組みづくりサ ブG	京都大学	対話型パブリックコメントの戦略 的広報に関する議論
2014年 2月6日	【グループ会議】 専門家連携G	京都大学&滋 賀大学&鳥取 大学&イギリ ス（Skypeに て）	専門家を対象としたアンケート調 査に向けての議論
2014年 2月12日	【グループ会議】 研究代表者から なるG	ナレッジキャ ピタル（大阪 市北区）	対話型パブリックコメントに関す る情報共有
2014年 2月15日	【グループ会議】 研究代表者から なるG	京都大学&滋 賀大学&イギ リス（Skype にて）	プロジェクトの進捗状況の共有

2014年 2月24日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	H26年度に開発予定のシステムに関する議論
2014年 3月3日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	RISTEX合宿の情報共有とH26年度の計画に関する議論
2014年 3月5日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	H25年度に開発したシステムの確認とH26年度に開発予定のシステムに関する議論
2014年 3月6日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	ナレッジキャピタル（大阪市北区）	H26年度の計画に関する議論
2014年 3月6日	【全体会議】 全体運営会議	ナレッジキャピタル（大阪市北区）	H26年度の計画と社会実装の方向性に関する議論
2014年 3月18日	【グループ会議】 場づくりサブG	ナレッジキャピタル（大阪市北区）	PESTIワークショップシリーズの取りまとめ方法についての議論
2014年 3月18日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	ナレッジキャピタル（大阪市北区）	H26年度の計画に関する議論
2014年 3月24日	【グループ会議】 実務家連携G	京都大学	H26年度の計画に関する議論
2014年 3月24日	【グループ会議】 仕組みづくりサブG	京都大学	H26年度に開発予定のシステムに関する議論
2014年 3月24日	【グループ会議】 研究代表者からなるG	京都大学	H25年度の実施内容のまとめ方について議論
2014年 3月31日	【全体会議】 全体運営会議	ナレッジキャピタル（大阪市北区）	H25年度実施内容の総括と世論調査の予備的な分析結果についての報告

#### 4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 1) 他PJとも連携し、政策デザインワークショップシリーズを立ち上げ、H25年度中に4回を実施した。
- 2) 大阪の商業施設内において、一般市民と日本の将来像について議論する「PESTIワークショップシリーズ」を企画し、3回実施した。そこで得られた意見は、本プロジェクトにおいて集約し、政策担当者に届けた。
- 3) 主に京都市民によって構成されている「パブコメ普及協会」と連携し、従来のパブリックコメントを発展させた新しいパブリックコメントの仕組み「対話型パブリックコメント」を試みた。

#### 5. 研究開発実施体制

##### (1) 研究代表者からなるグループ

- ①加納圭（滋賀大学教育学部、講師／京都大学物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）、特任講師）
- ②プロジェクトマネジメント

##### (2) セグメンテーション・ニーズ発掘グループ

- ①菅万希子（帝塚山大学経営学部、准教授）
- ②実施項目
  - 1) 「再生医療」をテーマとした、「関心層」固有のニーズ発掘
  - 5) セグメンテーション・プロファイル改良のための調査設計
  - 7) セグメント別に「政策メニュー提示に資するニーズ」を発掘する「方法論」構築のための戦略立案

##### (3) 場づくり・仕組みづくり・社会実装グループ

- ①伊藤真之（神戸大学大学院人間発達環境学研究科、教授）
- ②実施項目
  - 3) 関心層別の参加を促す場づくり
  - 9) 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）へのエビデンス実装の枠組づくり

##### (4) 実践評価グループ

- ①高梨克也（京都大学学術情報メディアセンター、産学連携研究員）
- ②実施項目
  - 4) 関心層別の特徴を、特に政策関与行動を中心に分析
  - 8) 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）を通して国民のニーズを把握することへの実務家ニーズ調査の枠組づくり

(5) 実務家連携グループ

①吉澤剛（大阪大学大学院医学系研究科、准教授）

②実施項目

- 2) 実務家と「ともに」政策メニュー作成
- 6) 実務家と「ともに」行う、テーマ設定のトライアル
- 8) 国民の政策関与チャンネル（PC手続等）を通して国民のニーズを把握することへの  
実務家ニーズ調査の枠組づくり

(6) 専門家連携グループ

①加納圭（滋賀大学教育学部、講師／京都大学物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）、  
特任講師）

②実施項目

- 2) 実務家と「ともに」政策メニュー作成
- 6) 実務家と「ともに」行う、テーマ設定のトライアル

## 6. 研究開発実施者

研究グループ名：研究代表者からなるグループ（滋賀大学、京都大学）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
加納 圭	カノウ ケイ	滋賀大学教育学部／京都大学物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）	講師／特任講師	全体統括／グループ間のマネジメントと各グループの進捗管理／人材育成への貢献
水町 衣里	ミズマチ エリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）	特定研究員	研究代表者の補佐
秋谷 直矩	アキヤ ナオノリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）	特定研究員	研究代表者の補佐
工藤 充	クドウ ミツル	京都大学物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）	特定研究員	各グループの研究開発への参加／成果実装・定着に向けた戦略立案

研究グループ名：セグメンテーション・ニーズ発掘グループ（帝塚山大学、京都大学）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
菅 万希子	スガ マキコ	帝塚山大学経営学部	准教授	グループ統括／及び 全国民を対象とした マーケティング調査 ／セグメンテーション／ プロファイル作成の実施
日置 弘一郎	ヒオキ コウイチロウ	京都大学大学院 経済学研究科	教授	研究開発の社会的影響 についての評価
丁 瀟君	テイ ショウジュン	京都大学経営管理 大学院	特定助教（寄 付講座）	データ分析

研究グループ名：場づくり・仕組みづくり・社会実装グループ（神戸大学、京都大学）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
伊藤 真之	イトウ マサユキ	神戸大学大学院 人間発達環境学 研究科	教授	グループ統括／場づ くり／研究開発全般 業務
森 幹彦	モリ ミキヒコ	京都大学学術情 報メディアセン ター	助教	実装に向けた仕組み づくり（システム開 発）統括
元木 環	モトキ タマキ	京都大学情報環 境機構／学術情 報メディアセン ター	助教	実装に向けた仕組み づくり（情報デザイ ン）
中山 晶絵	ナカヤマ アキエ	神戸大学大学院 人間発達環境学 研究科	教育研究補 佐員	場のデザインと実装 ／評価
蛭名 邦禎	エビナ クニヨシ	神戸大学大学院 人間発達環境学 研究科	教授	研究開発全般への助 言
源 利文	ミナモト トシフミ	神戸大学大学院 人間発達環境学 研究科	特命助教	場のデザインと実装 ／評価
森村 吉貴	モリムラ ヨシタカ	京都大学物質一 細胞統合シス テム拠点（iCeMS）	特定拠点助 教	実装に向けた仕組み づくり（システム開 発）

水町 衣里	ミズマチ エリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	特定研究員	場のデザインと実装／評価
加納 圭	カノウ ケイ	滋賀大学教育学部／京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	講師／特任講師	場のデザインと実装／評価
鷲 純代	サギ スミヨ	神戸大学大学院人間発達環境学研究科	事務補佐員	場づくりの補助

研究グループ名：実践評価グループ（京都大学）

氏名	フリガナ	所属	役職（身分）	担当する研究開発実施項目
高梨 克也	タカナシカツヤ	京都大学学術情報メディアセンター	産学連携研究員	グループ統括／場づくり／研究開発全般業務
秋谷 直矩	アキヤナオノリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	特定研究員	場の評価
森 幹彦	モリ ミキヒコ	京都大学学術情報メディアセンター	助教	場の評価に向けた仕組みづくり（システム開発）統括
森村 吉貴	モリムラヨシタカ	京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	特定拠点助教	場の評価に向けた仕組みづくり（システム開発）
元木 環	モトキ タマキ	京都大学情報環境機構／学術情報メディアセンター	助教	場の評価に向けた仕組みづくり（情報デザイン）

研究グループ名：実務家連携グループ（大阪大学、京都大学）

氏名	フリガナ	所属	役職（身分）	担当する研究開発実施項目
吉澤 剛	ヨシザワゴウ	大阪大学大学院医学系研究科	准教授	グループ統括／実務家との連携・協働

水町 衣里	ミズマチ エリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	特定研究員	実務家を対象としたワークショップの企画・運営
加納 圭	カノウ ケイ	滋賀大学教育学部／京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	講師／特任講師	実務家を対象としたワークショップの企画・運営

研究グループ名：専門家連携グループ（京都大学、鳥取大学）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 研究開発実施項目
加納 圭	カノウ ケイ	滋賀大学教育学部／京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	講師／特任講師	グループ統括、専門家及び産学連携コーディネーターとの連携・協働
前波 晴彦	マエナミ ハルヒコ	鳥取大学産学・地域連携推進機構	講師	産学連携コーディネーターとの連携・協働
水町 衣里	ミズマチ エリ	京都大学物質－細胞統合システム拠点 (iCeMS)	特定研究員	専門家との連携・協働

## 7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 7-1. ワークショップ等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2013年 4月25日	第2回政策デザインワークショップ：政策に関する理論と実践	STANDARD 会議室虎ノ門 Annex1 階A 会議室	38人	科学技術イノベーション政策のあるべき姿について、実務家と共に議論するための会を開催した。
2013年 5月10日	第3回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	14人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。

2013年 5月21日	第3回政策デザインワークショップ：政策デザインを考える	交流カフェエキスパート倶楽部	25人	科学技術イノベーション政策のあるべき姿について、実務家と共に議論するための会を開催した。
2013年 6月14日	第4回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	6人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。
2013年 6月22日	そんなに身近ナノ？ 市民目線で扱い方を考えよう	京都大学総合博物館 1階ロビー	7人	ナノ物質をどう管理すればよいのか、消費者や一般市民の目線でさまざまな可能性や課題について考える会を開催した。
2013年 6月25日	そんなに身近ナノ？ 市民目線で扱い方を考えよう Part 2	京都大学吉田泉殿	9人	ナノ物質をどう管理すればよいのか、消費者や一般市民の目線でさまざまな可能性や課題について考える会を開催した。
2013年 7月1日	第4回政策デザインワークショップ：政策形成プロセスをロジック化する	交流カフェエキスパート倶楽部	19人	科学技術イノベーション政策のあるべき姿について、実務家と共に議論するための会を開催した。
2013年 7月26日	第5回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	5人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。
2013年 8月6日	第5回政策デザインワークショップ：政策のポンチ絵をまとめる	交流カフェエキスパート倶楽部	27人	科学技術イノベーション政策のあるべき姿について、実務家と共に議論するための会を開催した。
2013年 8月30日	第6回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	6人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。
2013年 9月11日	第7回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	11人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。
2013年 9月27日	第8回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	9人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。

2013年 9月30日	PESTIワークショップ シリーズ 知ろう・語 ろう・届けよう 科学 技術イノベーション政 策 第1回「知ろう」	うめきた・グラ ンフロント大阪 北館1階 ナレッジキャ ピタル カフェ ラボ	45人	参加者と語り合ったことを、 政策立案者に届けることを目 指したワークショップを開催 した。
2013年 10月8日	第9回パブコメ勉強会	ひと・まち交流 館京都 2階 市 民活動総合セン ター	7人	過去のパブコメ実施例などの 知見に基づいて、革新的なパ ブコメのあり方について考え るための勉強会を開催した。
2013年 10月28日	PESTIワークショップ シリーズ 知ろう・語 ろう・届けよう 科学 技術イノベーション政 策 第2回「語ろう」	うめきた・グラ ンフロント大阪 北館1階 ナレッジキャ ピタル カフェ ラボ	37人	参加者と語り合ったことを、 政策立案者に届けることを目 指したワークショップを開催 した。
2013年 10月30日	第10回パブコメ勉強会	ひと・まち交流 館京都 2階 市 民活動総合セン ター	8人	過去のパブコメ実施例などの 知見に基づいて、革新的なパ ブコメのあり方について考え るための勉強会を開催した。
2013年 11月13日	第11回パブコメ勉強会	ひと・まち交流 館京都 2階 市 民活動総合セン ター	5人	過去のパブコメ実施例などの 知見に基づいて、革新的なパ ブコメのあり方について考え るための勉強会を開催した。
2013年 11月25日	PESTIワークショップ シリーズ 知ろう・語 ろう・届けよう 科学 技術イノベーション政 策 第3回「届けよう」	うめきた・グラ ンフロント大阪 北館1階 ナレッジキャ ピタル カフェ ラボ	29人	参加者と語り合ったことを、 政策立案者に届けることを目 指したワークショップを開催 した。
2013年 12月2日	第12回パブコメ勉強会	ひと・まち交流 館京都 2階 市 民活動総合セン ター	5人	過去のパブコメ実施例などの 知見に基づいて、革新的なパ ブコメのあり方について考え るための勉強会を開催した。
2013年 12月16日	第13回パブコメ勉強会	ひと・まち交流 館京都 2階 市 民活動総合セン ター	5人	過去のパブコメ実施例などの 知見に基づいて、革新的なパ ブコメのあり方について考え るための勉強会を開催した。
2013年 12月17日	科学コミュニケーショ ン研究会・関西支部勉 強会「京都カラスマ大 学のつくり方」	京都大学吉田泉 殿	15人	市民が自主的に公共的な目的 のために組織を運営するして いる事例を共有するための勉 強会を開催した。

2013年12月21-22日	未来館で未来を語ろう！ みんなで作る「夢ビジョン」（「ボランティアイベント2013・冬」内）	日本科学未来館	46人	参加者と語り合ったことを、政策立案者に届けることを目指したブースを出展した。
2014年1月10日	第14回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	7人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。
2014年1月31日	第15回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	5人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。
2014年2月15日	「健康づくり・福祉の将来像」に関する対話型パブリックコメント（「まちづくり人財の森集会」内）	ルッチプラザ	22人	米原市の「健康づくり・福祉の将来像」に関して意見を募るブースを出展した。
2014年2月21日	第16回パブコメ勉強会	ひと・まち交流館京都 2階 市民活動総合センター	5人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。
2014年2月23日	「健康づくり・福祉の将来像」に関する対話型パブリックコメント（「バンド生演奏カラオケ大会」内）	ルッチプラザ	40人	米原市の「健康づくり・福祉の将来像」に関して意見を募るため、既存の催しに出向き意見を集めた。
2014年3月16日	「健康づくり・福祉の将来像」に関する対話型パブリックコメント（「ルッチプラザ演歌まつり」内）	ルッチプラザ	24人	米原市の「健康づくり・福祉の将来像」に関して意見を募るため、既存の催しに出向き意見を集めた。
2014年3月21日	「健康づくり・福祉の将来像」に関する対話型パブリックコメント（「重要文化的景観選定記念フォーラム“東草野の山村景観”」内）	米原市立東草野小中学校	25人	米原市の「健康づくり・福祉の将来像」に関して意見を募るブースを出展した。
2014年3月21日	第17回パブコメ勉強会	米原市立東草野小中学校	6人	過去のパブコメ実施例などの知見に基づいて、革新的なパブコメのあり方について考えるための勉強会を開催した。

## 7 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

### (1) 書籍、DVD

- ・特になし

### (2) ウェブサイト構築

- ・ Facebookページ名：PESTI  
URL： <https://www.facebook.com/pages/PESTI/707482169262127>  
立ち上げ年月：2013年12月3日
- ・ Facebookページ名：対話型パブリックコメント  
URL： <https://www.facebook.com/taiwapc>  
立ち上げ年月：2013年12月2日

### (3) 学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ 会名：Summer Fair 特別講演会  
会場：学校法人駿河台学園 駿台予備学校 京都南校  
発表タイトル：再生医療の実現化に向けて～理系・文系 双方向の取組から～  
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）  
開催日：2013年8月7日
- ・ 会名：Summer Fair 特別講演会  
会場：学校法人駿河台学園 駿台予備学校 神戸校  
発表タイトル：再生医療の実現化に向けて～理系・文系 双方向の取組から～  
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）  
開催日：2013年8月7日
- ・ 会名：Summer Fair 特別講演会  
会場：学校法人駿河台学園 駿台予備学校 上本町校  
発表タイトル：再生医療の実現化に向けて～理系・文系 双方向の取組から～  
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）  
開催日：2013年8月10日
- ・ 会名：Innovation of Study Specialisations by the Faculty of Science, University of Hradec Kralove  
会場：University of Hradec Kralove, EU  
発表タイトル：Science Communication and Public Engagement in Japan  
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）、工藤充（京都大学）  
開催日：2013年8月19日
- ・ 会名：Summer Fair 特別講演会  
会場：学校法人駿河台学園 駿台予備学校 大阪校  
発表タイトル：再生医療の実現化に向けて～理系・文系 双方向の取組から～  
発表者：加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）  
開催日：2013年9月9日

- ・ 会名：科学コミュニケーション研究会 第8回年次大会  
会場：京都大学総合博物館  
発表タイトル：STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計（ポスター発表）  
発表者：工藤充（京都大学）、加納圭（滋賀大学／京都大学／RISTEX）、水町衣里（京都大学）、秋谷直矩（京都大学）、森村吉貴（京都大学）、高梨克也（京都大学）、森幹彦（京都大学）、元木環（京都大学）、後藤崇志（京都大学）、吉澤剛（大阪大学）、菅万希子（帝塚山大学）、伊藤真之（神戸大学）、蛭名邦禎（神戸大学）、源利文（神戸大学）、中山晶絵（神戸大学）、前波晴彦（鳥取大学）、日置弘一郎（京都大学）、丁瀟君（京都大学）  
開催日：2013年9月29日
- ・ 会名：科学コミュニケーション研究会  
会場：京都大学総合博物館  
発表タイトル：コミュニケーション科学から見たコミュニケーションの双方向性（招待講演）  
発表者：高梨克也（京都大学）  
開催日：2013年9月29日
- ・ 会名：Bionetworking in Asia Public Lecture Series  
会場：University of Sussex, UK  
発表タイトル：Developing a model of public engagement with science, technology and innovation policy in Japan  
発表者：工藤充（京都大学）  
開催日：2014年1月28日

## 7 - 3. 論文発表

### (1) 査読付き（  2  件）

#### ●国内誌（  2  件）

- ・ 著者：秋谷直矩、水町衣里、高梨克也、加納圭  
発表論文名：知識の状態を提示すること：再生医療にかんするグループインタビューにおける参与構造の分析  
掲載誌名：科学技術コミュニケーション  
掲載巻（号）頁：13, 17-30  
発行年：2013
- ・ 著者：加納圭、水町衣里、岩崎琢哉、磯部洋明、川人よし恵、前波晴彦  
発表論文名：サイエンスカフェ参加者のセグメンテーションとターゲティング：『科学・技術への関与』という観点から  
掲載誌名：科学技術コミュニケーション  
掲載巻（号）頁：13, 3-16  
発行年：2013

●国際誌 ( 0 件)

(2) 査読なし ( 0 件)

**7 - 4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)**

(1) 招待講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

(2) 口頭発表 (国内会議 3 件、国際会議 0 件)

- ・学会名：産学連携学会 第11回大会  
会場：いわて県民情報交流センター (アイーナ)  
発表タイトル：STIに向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計 (PESTI) (オーガナイズドセッション 『RISTEX』プロジェクトに見る産学連携の展開の『ヒント』内)  
発表者：前波晴彦 (鳥取大学)  
開催日：2013年6月21日
- ・学会名：研究・技術計画学会 第28回年次学術大会  
会場：政策研究大学院大学  
発表タイトル：政策デザインワークショップ：実務家と研究者の知識交流の場  
発表者：吉澤剛 (大阪大学)  
開催日：2013年11月3日
- ・学会名：科学技術社会論学会 第12回年次研究大会  
会場：東京工業大学大岡山キャンパス  
発表タイトル：STI に向けた政策プロセスへの関心層別関与フレーム設計 (PESTI=ペスティ)  
発表者：加納圭 (滋賀大学/京都大学/RISTEX)、工藤充 (京都大学)  
開催日：2013年11月17日

(3) ポスター発表 (国内会議 1 件、国際会議 0 件)

- ・学会名：産学連携学会 第11回大会  
会場：いわて県民情報交流センター (アイーナ)  
発表タイトル：「国民ニーズ」と「専門家ニーズ」を包含した政策メニュー提言プロセスの検討  
発表者：前波晴彦 (鳥取大学)、加納圭 (滋賀大学/京都大学/RISTEX)、水町衣里 (京都大学)、工藤充 (京都大学)  
開催日：2013年6月20日、21日

**7 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等**

(1) 新聞報道・投稿 ( 1 件)

- ・読売新聞、2013年6月3日朝刊、「科学再考：新メディアで社会とコミュニケーション」

(2) 受賞 ( 0 件)

(3) その他 ( 0 件)

**7 - 6. 特許出願**

なし